

黄疽は治らぬ

……しじみを食べても……
……醫學博士 柳澤信賢……

◆……過食がもとで
しじみ汁を食べると黄疽が治るといふことは古くからいひ傳へられてゐることですが、全くの迷信で、しじみ汁を食べたからとて黄疽は決して治るものではないから、また、黄疽は榮養不良から來るもの、やうにも考へられてゐるやうですが、これは全くあまりで、黄疽はかつて過食から起る場合がしばしばあり、ことに秋口は、食慾が旺盛なるまゝに油っこいものを食べ過ぎ、そのため、カタル性の黄疽に罹る事が多くなります。このカタル性黄疽は、はじめは相當高熱が續き、その中眼球血膜が黄色になり、ついで全身の皮膚が黄色を呈して來ます。それですら黄疽に罹らぬ要心としては、秋の過食を慎むのが一番よい事ですが、それ、既に黄疽になつた後は、アリカリ性の供給を充分にし、例へばソーダ水だとか、炭酸水等のアルカリ製剤の供給を豊富にして、新陳代謝を盛にし、また食物は油っこいものをさけ、軽い食物をとりやうにします。卵などを食べても、黄味を捨て、白味を食へ、便秘せぬやうに注意します。

◆……小兒に來るのは、しかし黄疽にもいろいろの種類があつて、初生兒に來る黄疽も、微毒性の黄疽等があるもので、それにはそれ々の手當を必要とします。
◆……初生兒に來る黄疽は生後二日、四日あたりから起り、一、二週間で全身の皮膚が黄色になります。これは別に手當を要さず、其儘放置して治るのが普通で、出生兒の七八〇%は罹りまゝに治りますが、何が原因かまだ充分判つてゐません。しかし、その中に色が消えずにかへつて強くなるものがあります。これは先天微毒に罹つてゐる一症候として現はれるものだから、充分驅微療法を講じなければなりません。
◆……大人によく來るのでは、萎縮性肝臓硬化症と肥大型肝臓硬化症との二つがあつて、これには微毒が原因をなすものと、さうでないものがあります。

また中毒その他によつて黄疽を來す場合、鬱血して黄疽の來る場合、また、子供では先天性の膽道閉塞症によつて起る黄疽もあれば、出血性スビロヘータ病(ワイルス病)といふものもあります。これは微毒の病原菌によつて傳染する病気で、子供が小川や、池などで遊んで、皮膚から感染します。大人でも同様です。症状は四五日の潜伏期を過ぎると急に惡寒發熱し、痙攣を起し、眼球血膜が充血し、身體中のリンパ腺が腫れ、二週間で下熱しますが、同時に黄疽が現はれ皮膚に出血を伴はせて、そして段々貧血し筋肉が瘦せて筋痛を覺えます。療法は早く606號を注射すると治す、

命の御用藥は
大平屋藥店
平一 電話六四二番

陸セメント特約店
大谷石販賣店
酒井伴城商店
平驛前 電話661番

親切第一
永澤洗濯店
平一川岸通り

貸切の御用命は
尼子タクシー
平二 電話六四〇番

おでん・かん酒
小料理
しるこ うきな
平館東隣 電話306番

御酒の御用命は
大黒屋酒店
平館前 電話三〇六番

支那そば
華香亭
電話二九二番

藥の御用命を
水野藥局
平一 電話六九九番

見るからに感じの良い
カフェー平樂
平二角 電話二九六番

親切第一の店
ダイヤ堂 鈴木時計店
平五丁目
釜屋商店
電話九番・九九番

來れ健康増進……驚異……賞讃……の……ラウ……ム……湯……
健康増進……驚異……賞讃……の……ラウ……ム……湯……
●冷た込みは病の元——健康者も先づ藥湯へ！
見よ……病む人……弱き人の一大福音！
醫學博士 安達 先生 御證明
醫學博士 淺井 先生 御推獎
醫學博士 野村 先生 御推獎
いよく御寒くなりました、豫て好評、ラデウム温浴素多量投劑、湯加減を注意致します故毎日湯治氣分で皆様御誘合せ御入浴を願ひます。
▽主治効能△
神經痛・筋及關節痲痺、斯・腦神經衰弱・慢性貧血症・慢性胃腸病・消化不良・常習便秘・慢性皮膚病・殊ニ乾性・痒性・疥癬・痔疾・慢性婦人生殖器諸病
下腹腰痛・足腰ノ冷感・疝痛・打撲・捻挫・病後ノ恢復期
●本浴劑の入浴體驗者より等しく御賞讃を受し諸点
一 逆せず暖まり、いかなる寒中でも湯さめせぬ
一 寝小便や小便近き人、冷に性の人には特に良し
一 肌觸り柔かく白粉石鹼に支障なく御化粧に尤もよし
一 大人は精力増進、小兒は發育促進

平郵便 町南 町裏 湯の武